

日程	科目	学部	学科	専攻・コース
I 期	日本語			
受験番号		氏 名		
				採 点

I 次の（ ）の中からもっとも適切なものを選び、○で囲みなさい。

- (1) この道（ に で を から ）まっすぐ行くと、コンビニがあります。
- (2) この本は子ども（ において によって に対して にとって ）少し難しい表現が使われている。
- (3) 私の会社は、年齢（ に沿って にしたがって にもかかわらず にかかわらず ）リーダーになるチャンスがある。
- (4) このかばんは小さいので、パソコンが（ 入れない 入らない 入れない 入られない ）。
- (5) 友達が（ 貸してもらった 貸してあげた 貸してくれた 借りてもらった ）本にコーヒーをこぼしてしまった。
- (6) 高級なレストランで食事を（ すると するなら したら すれば ）、きちんとした服装をしたほうがいい。
- (7) 練習すればだれでもピアノが上手に（ なるわけではない なるわけがない なるはずがない なるべきではない ）。
- (8) 地球温暖化は、自然界の生態系を破壊（ しかねる するまい しかねない せざるをえない ）。
- (9) 通っている大学や働いている会社の名前でその人を（ 決定 断定 判断 診断 ）してはいけない。
- (10) この病気に（ 有効な 有能な 有力な 有利な ）治療薬はまだ開発されていない。
- (11) 渋谷に買い物に行ったが、（ ついに 結局 とうとう つい ）何も買わずに帰ってきた。
- (12) 今日は朝から仕事がたくさんあって（ そそっかしい あわただしい はなはだしい さわがしい ）一日だった。
- (13) 田中さんは頼んだ仕事を何でも（ 引き取って 受け取って 受け入れて 引き受けて ）くれるので、助かる。
- (14) お客から新商品が使いにくいという（ オーダー リクエスト クレーム ブーイング ）があった。
- (15) 「お荷物をお届けしますので、お客さまのご都合のよい時間を（ おうかがいして おっしゃって 申し上げて うかがって ）ください。」

II 次の文の ★ に入る最も適切なものをア～エから一つ選び（ ）の中に書きなさい。

- (1) 卒業研究発表会について _____ ★ _____ ご確認をお願いします。 ()
ア どうか イ このような ウ いいか エ 内容で
- (2) 今日の午前中に _____ ★ _____ まだ着いていない。 ()
ア 荷物が イ 注文した ウ ように エ 届く
- (3) マニュアル _____ ★ _____ できないと思います。 ()
ア 通りの イ 良いサービスは ウ だけでは エ 対応
- (4) 現代社会に _____ ★ _____ 縮小することだ。 ()
ア 課題の一つは イ 重要な ウ 貧富の格差を エ おける

日程	科目	学部	学科	専攻・コース
I 期	日本語			
受験番号		氏名		
				採点

Ⅲ 次の下線部に適切な文（文章）を書き、文章を完成させなさい。

- (1) 生成 AI の技術が発達するにつれて、

- (2) 地球の温暖化をくい止めるためには、

- (3) 一生懸命に働いたからといって、必ずしも

Ⅳ 次の下線部に適切な文を書き、文章を完成させなさい。

日本政府観光局（JNTO）が発表した2024年1年間の訪日外国人旅行者数は3686万9900人で、これまでの過去最多だった。

外国人観光客が増えることで、

_____ という利点がある。しかし、

_____ という問題も生じてくる。

Ⅴ 次のA～Cに、下のア～ウの文を入れて、文章を完成させなさい。

仏教の教えの中に「悪友を避けて善友を求めよ」というものがあります。

- (A)
(B)
(C)

あなたに近寄ってくる人は、あなたのことばづかひやふるまいを見ながら判断をしていることとなります。

ことばづかひは人間関係づくりに大きく関係をしてることがわかるかと思います。つまり、ことばを発することは「自分のことばづかひを好ましいと感じる人との接点をつくること」を意味しているのです。

ア だから、付き合う人を考えなさいということですね。

イ 逆も然り*で、自分自身が人に与えている影響も当然あります。

ウ 近い間柄になれば、人は必ず影響を受けるものです。

* 然り……その通りである

(A)	(B)	(C)
-----	-----	-----

日程	科目	学部	学科	専攻・コース
I 期	日本語			
受験番号		氏名		
				採点

VI 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

自分のことは自分で決める。今の時代、そんなことは当たり前と思うかもしれませんが。しかし歴史を振り返ると、そのような時期は長くなく、私たちは自分よりも集団に重きをおいた生活をしてきました。私たちが生きていくためには、集団で協力し、集団のルールにしたがわなければならなかったのです。

ゆえに、自分のことを自分で決めるというのは、実はそれほど簡単ではありませんでした。自分のことを自分で決めるには、自身の決定を a 尊重してもらえらるほどの環境が整わねばならないのです。とくに重要なのが物的な条件と思想的な条件です。

【中略】

自己決定を可能にする物的な条件とは、端的に言えば物的な b 豊かさのことです。人びとが「個人」として自己を確立し、意見を述べるためにはあるていどの豊かさが必要になります。しかし、人と協力しないで済むほどの豊かさは、そう簡単に手に入りません。ゆえに私たちは、先ほども述べたように、①歴史の大半において集団で協力し、集団のルールにしたがって生きてきました。

【中略】

もうひとつの思想的な条件とは、個人を尊重する思想の浸透です。いくら豊かになって個々人の選択肢が増えたとしても、彼・彼女らの自由な選択と決定を c 許容する文化的な下地がなければ、物事を自分で決められる社会にはなりません。豊かになっても思想や信条を統制される国で、自分のことを自分で決めるのは難しいものです。

【中略】

ここまで説明した物的条件と思想的条件が高度に満たされ、社会の中心単位が個人になった社会を「個人化社会」と言います。この概念は、ウルリッヒ・ベックという社会学者が1980年代に提唱しました。日本では1990年代後半あたりから d 本格的に個人化社会に突入したと言われています。

個人化した社会では学校や職場などの中間的な集団の力が弱まるため、所属集団や周りの人から「このようにせよ」と言われることがあまりありません。どのようなことをやるか、どのような人とつき合うかは、個々人が自分で考えて決めていきます。

この点について進路を例にとって考えてみましょう。個人化する前の日本社会には、いわゆる「定番のライフコース」とでも言うものがありました。男性ならば、学校卒業後に就職し、そこから数年を経て結婚し子どもをもち、稼ぎ手として仕事を全うする。女性ならば、いわゆる一般職に就職し、しばらく働いた後に結婚・退職し、子どもが生まれたら、家庭生活を中心に据えていく。このようなコースが存在していたのです。

しかし、個人化が進展した日本社会には、いわゆる「定番」のライフコースはありません。個々人の進路は、彼・彼女らが自身で決めていかねばなりません。まさに、選択と決定により人生が成り立っているのです。 X 、個人化した社会とは、自分のことを自分で決めるよう強く求められる社会とも言えます。

ここで重要なのは、個人化社会が「自分のことを自分で決める」ことを「社会」として「個人」に強く求める、ということです。これはなかなか皮肉な状況をもたらします。「自分で決められる」という言葉には、自由で軽やかな e 印象があります。たいていの人は、誰かに命令されてしぶしぶ何かをやるより、自分で決められた方が気分もよいでしょう。しかし、「自分で決める」ことを社会から半強制的に求められるとなると話は別です。

個人化した社会の人生は個々人の選択と決定で成り立っています。このような社会では「選択をしない」「決定をしない」

日程	科目	学部	学科	専攻・コース
I 期	日本語			
受験番号		氏 名		
				採 点

という「決定」はできません。というのも、選択をしないことも決定をしないことも、「選択をしない決定」「決定をしない決定」といった形で、個々人の選択の結果と見なされてしまうからです。先ほどの進路の例で言えば、「就職活動をしない」という行為は、「就職活動をしないという決定」だと見なされてしまうのです。

こうなると、②「自分で決める」行為の緊張感は一挙に高まります。自ら決めたことに対して、責任をもつよう強く求められるからです。そうしたなかで私たちは自らの来し方を決定しつつ、人生を歩んでいきます。

それでは、私たちはどれだけ好きなように物事を決められるのか。決定にまつわる責任とは何なのか。以下ではその点について考えていきましょう。

「自分で決める」というのと「自分で決められる」というのは、似ているようでかなり違います。前者は何らかの行為について「決断を下しているだけですが、後者は決断の裏に「制約があることを想起させます。「自分で決められる」の背後には「決められない」こともいっぱい隠れているのです。

実際のところ、すべての人がやりたいことをやるだけでは、社会はうまく回りません。特定の行為を実行するにあたり、外からの制約がなく決断できることを、かりに「自己決定の権利」としておきましょう。

この自己決定の権利には、一定の拘束が課されます。有名なのがイギリスの哲学者、ジョン・スチュアート・ミルの提唱した自由論です。彼は「他人に危害を加えない」かぎり本人の意志を尊重すべきと説きました。

ミルの提唱した「危害原理」は、自己決定の範囲を検討するうえで、今も重要な基準線となっています。たしかに、ごちそうがほしいからと言って、他人が食べているものを奪ったり、ストレスを発散したいからと言って、h 突然殴られたりする社会ではたまりません。③この定義は一見するとわかりやすく妥当なもののように思えます。 Y 、よくよく考えると、かなり曖昧な定義でもあります。

そもそも、「他人への危害」というのは、どのような行為を指すのでしょうか。先に挙げた暴力や略奪ならば、被害がわかりやすく直感的にも理解しやすいでしょう。しかし、「他者への危害」に含まれるのはそれだけではありません。ハラスメントや多様性への配慮を求められる社会では、精神的なダメージも「他者への危害」と考えられます。

とはいえ、ある行為や発言が、相手に対してどのていど精神的ダメージを与えるか測定するのは容易ではありません。物事の受け取り力は、行為や発話の状況、受け取る相手により異なるからです。相手によかれと思って行ったアドバイスが相手を傷つけてしまうこともあります。④個人化した社会では、結婚や出産など、一連のアドバイスはタブー*となりつつあります。

これだけ考えても私たちが決定できる範囲はかなり狭められていることがわかります。それだけではありません。「他者」というのも実は多様であり、「他者」のなかには、「集合的な他者」も含まれます。

組織や集団に害をなす、または、迷惑をかけるような行為は認められない。個人化したとはいえ、集団的体質の残る日本社会では、このような物言いがなされることも少なくありません。今もニュースを見ていると、さまざまな人が組織や社会に迷惑をかけたと謝罪会見を開いています。

このように見えてくると、⑤「自分のことを自分で決める」社会は、ずいぶんと息苦しいように感じられます。いろいろなことについて「自分で決めよ」と言ってくる割には、結果に対してケチをつけられる。そこに自己決定を求められる社会の、息苦しさの一端が垣間見られます。

(石田光規『自己決定の落とし穴』)

* タブー (taboo) ……してはいけないこと。

日程	科目	学部	学科	専攻・コース
I 期	日本語			
受験番号		氏 名		
				採 点

問1 波線部 a ~ h の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- a 尊重 () b 豊かさ () c 許容 ()
- d 本格的 () e 印象 () f 決断 ()
- g 制約 () h 突然 ()

問2 空欄 、 に入る語として、もっとも適切なものを次のア~カからそれぞれ選びなさい。

ア たとえば イ さらに ウ したがって エ また オ しかし カ なぜなら

X	Y
---	---

問3 下線部①「歴史の大半において集団で協力し、集団のルールにしたがって生きてきました」とあるが、それはなぜか。文中のことばを使って答えなさい。

問4 下線部②「「自分で決める」行為の緊張感は一挙に高まります」とあるが、それはなぜか。文中のことばを使って答えなさい。

問5 下線部③「この定義」が指す内容を文中のことばを使って答えなさい。

問6 下線部④「個人化した社会では、結婚や出産など、一連のアドバイスはタブーとなりつつあります」とあるが、それはなぜか。文中のことばを使って答えなさい。

日程	科目	学部	学科	専攻・コース
I 期	日本語			
受験番号		氏 名		
				採 点

問7 下線部⑤「自分のことを自分で決める」社会は、ずいぶん息苦しいように感じられます」とあるが、それはなぜか。文中のことばを使って答えなさい。

--

問8 次のア～エのうち、本文の内容とあっているものには○、そうでないものには×をつけなさい。

ア 自己決定ができるようになるためには、社会の物的な条件と思想的な条件が整う必要がある。 ()

イ 日本が「個人化社会」になったのは、この概念が提唱されてから20年以上たってからである。 ()

ウ 精神的なダメージは測定することが難しいため、「他者への危害」と考えることはできない。 ()

エ 集団的体質が残る日本では、組織や集団に迷惑をかけるような行為も認められないことが多い。 ()